

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数							非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数			
理学療法士科	0人	0人	0人	0人	6人	6人	6人	0人	60人	23.7人
計	0人	0人	0人	0人	6人	6人	6人	0人	60人	—

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員		
				氏名	職名 (専任・兼任)	
基礎分野	科学的思考の基盤	物理学	1 5	石井 一暢	兼任	
		情報科学と処理	3 0	安原 聖二	兼任	
		法学	1 5	倉本 英明	兼任	
		心理学	1 5	山縣 豊樹	兼任	
	人間と生活	ソーシャルスキルⅠ		4	芝 亜砂美	兼任
				1 1	清水 薫	専任
		ソーシャルスキルⅡ		1 1	青山 千春	専任
				1 2	清水 薫	専任
		ソーシャルスキルⅢ		2 2	黒澤 祝	専任
				2	青山 千春	専任
				2	金村 智紀	専任
				1	清水 薫	専任
				9	大橋 哲朗	専任
		ソーシャルスキルⅣ		1 5	金村 智紀	専任
		体育		1 5	目黒 徹	兼任
				1 5	坂下 繁	兼任
		文章表現法		1 5	栗林 伊紀子	兼任
		医療英語		1 5	北村 知加美	兼任
	社会の理解	社会学		1 5	森下 義亜	兼任
	専門基礎 分野	人体の構造と機能及び 心身の発達	解剖学Ⅰ		1 5	藤野 準己
解剖学Ⅱ				1 5	二宮 孝文	兼任
身体運動機能学Ⅰ				3 0	藤野 準己	兼任
				5	佐藤 淳	兼任
身体運動機能学Ⅱ				5	今本 大地	兼任
				5	三木 貴弘	兼任
			身体運動機能学演習		1 5	藤野 準己
生理学Ⅰ				1 5	木村 一志	兼任
生理学Ⅱ				3 0	木村 一志	兼任
生理機能演習				6	黒澤 祝	専任
		4	佐藤 真貴子	専任		

			5	山根 鉄平	専任
			5	清水 薫	専任
			4	大橋 哲朗	専任
		運動学	1 5	三木 貴弘	兼任
		運動学実習	8	山根 鉄平	専任
			8	金村 智紀	専任
			1 4	大橋 哲朗	専任
		人間発達学	1 5	笹木 美幸	兼任
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	疾患の成り立ち 薬の作用と救急対応		8	安彦 善裕	兼任
			2	青山 千春	専任
			2	海老子 貴弘	兼任
			1	松村 和幸	兼任
			1	木ノ下 悠子	兼任
			1	大谷 理恵	兼任
			1	加藤 良和	兼任
		臨床心理学	1 5	和田 博美	兼任
		内部障害学 I	5	前田 好章	兼任
			3	藤本 晶子	兼任
		内部障害学 II	4	藤野 準己	兼任
			1	吉田 嵩	兼任
			1	若井 亜矢子	兼任
			1	金村 智紀	専任
			1	清水 薫	専任
		運動器障害学 I	8	森泉 茂宏	兼任
		運動器障害学 II	8	森泉 茂宏	兼任
		神経障害学 I	6	平田 雅文	兼任
			2	高國 憲二	兼任
		神経障害学 II	8	平田 雅文	兼任
		精神障害学	1 5	百野 公平	兼任
		発達障害学	4	香田 砂織	兼任
			4	青山 千春	専任
		老年期障害学	8	金村 智紀	専任
		言語聴覚障害学	4	吉村 亜樹	兼任
			3	室内 拓也	兼任
			1	小橋 透	兼任
		リハビリテーション医学	8	橋本 茂樹	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの概念	地域福祉概論	1 5	今井 博康	兼任
		人間工学	1 5	和田 龍彦	兼任
リハビリテーション概論		4	高國 憲二	兼任	
		1	青山 千春	専任	
		1	金村 智紀	専任	
		1	山根 鉄平	専任	
		1	大橋 哲朗	専任	
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	1 5	大橋 哲朗	専任
		理学療法概論演習	3	佐藤 真貴子	専任
			1 9	大橋 哲朗	専任
			1	大森 達也	兼任
			1	大野 大地	兼任
			1	小池 哲也	兼任

	研究補法論	1 5	大橋 哲朗	専任	
	理学療法研究	1 1	青山 千春	専任	
		1 0	黒澤 祝	専任	
		1	金村 智紀	専任	
		1	清水 薫	専任	
		1 1	大橋 哲朗	専任	
		理学療法障害学	6	黒澤 祝	専任
	4		金村 智紀	専任	
	5		富永 淳	兼任	
	理学療法総合演習 I	8	大川 徹	専任	
		8	山根 鉄平	専任	
		1 2	清水 薫	専任	
		2	大橋 哲朗	専任	
	理学療法総合演習 II	3	青山 千春	専任	
		6	黒澤 祝	専任	
		6	金村 智紀	専任	
		9	清水 薫	専任	
		4	大橋 哲朗	専任	
		2	富永 淳	兼任	
	理学療法総合演習 III	1	青山 千春	専任	
		1	黒澤 祝	専任	
		1	金村 智紀	専任	
		1 1	清水 薫	専任	
		1	大橋 哲朗	専任	
	理学療法総合演習 IV	2	青山 千春	専任	
		7	黒澤 祝	専任	
		1 7	金村 智紀	専任	
		5	清水 薫	専任	
		5	大橋 哲朗	専任	
		1	吉田 嵩	兼任	
		2	窪谷 和泰	兼任	
		2	徳重 大輔	兼任	
		2	千葉 一雄	兼任	
		2	西山 徹	兼任	
	理学療法文献読解	8	大橋 哲朗	専任	
理学療法管理学	理学療法管理学	1 5	青山 誠	兼任	
理学療法評価学	理学療法基礎評価学	1 5	黒澤 祝	専任	
		理学療法基礎評価学実習	2 3	山根 鉄平	専任
			2 2	金村 智紀	専任
		2	大橋 哲朗	専任	
	医療情報評価学	3	黒澤 祝	専任	
		4	金村 智紀	専任	
		3	清水 薫	専任	
		2	佐藤 貴一	兼任	
		3	佐藤 一成	兼任	
	運動器障害理学療法評価法	1 5	黒澤 祝	専任	
	中枢神経障害理学療法評価法	1 0	金村 智紀	専任	
		5	大橋 哲朗	専任	
	発達障害理学療法評価法	8	青山 千春	専任	

	内部障害学療法評価法	5	千葉 一雄	兼任
		5	徳重 大輔	兼任
		5	小山 昭人	兼任
	理学療法評価学総合演習 I	2	青山 千春	専任
		1 3	黒澤 祝	専任
		1	山根 鉄平	専任
		5	金村 智紀	専任
		4	大橋 哲朗	専任
		4	佐藤 義文	兼任
	理学療法評価学総合演習 II	4	佐藤 一成	兼任
		1	菅原 和侑	兼任
		6	菅原 和侑	兼任
		4	成田 悟志	兼任
	理学療法治療学	運動療法総論	1 5	大橋 哲朗
運動器障害理学療法 I		1 5	黒澤 祝	専任
運動器障害理学療法 II		3	山根 鉄平	専任
		9	黒澤 祝	専任
		7	加藤 新司	兼任
		4	富永 淳	兼任
中枢神経障害理学療法 I		1 4	佐藤 真貴子	専任
		1	大橋 哲朗	専任
中枢神経障害理学療法 II		7	佐藤 真貴子	専任
		8	菊地 惇	兼任
		7	南原 亮輝	兼任
発達障害理学療法 I		1 5	青山 千春	専任
発達障害理学療法 II		1 3	青山 千春	専任
		2	横井 裕一郎	兼任
内部障害理学療法 I		1 5	千葉 一雄	兼任
内部障害理学療法 II		8	金村 智紀	専任
		7	小山 昭人	兼任
		8	徳重 大輔	兼任
物理療法		1 7	山根 鉄平	専任
		1	高國 憲二	兼任
		5	滝澤 祐亮	兼任
装具関連理学療法		1 5	黒澤 祝	専任
義肢関連理学療法		1 5	西山 徹	兼任
理学療法特論 I		2	吉尾 雅春	兼任
		3	岡田 しげひこ	兼任
		2	佐藤 明紀	兼任
		2	三浦 利彦	兼任
		4	小谷 征輝	兼任
		2	鹿野 咲	兼任
理学療法特論 II		4	稲田 亨	兼任
	2	千葉 一雄	兼任	
	4	堀合 健太	兼任	
	2	尾野 日香	兼任	
理学療法特論 III	2	吉尾 雅春	兼任	
	3	佐藤 明紀	兼任	
	3	吉田 真	兼任	
日常生活活動学	1 5	金村 智紀	専任	

	理学療法治療学演習Ⅰ	5	青山 千春	専任
		8	黒澤 祝	専任
		3	山根 鉄平	専任
		3	金村 智紀	専任
		1 1	清水 薫	専任
		4	大橋 哲朗	専任
	理学療法治療学演習Ⅱ	2	加藤 新司	兼任
		3	大森 圭	兼任
		2	青山 誠	兼任
		4	大日向 純	兼任
4		梅原 圭二	兼任	
地域理学療法学	地域リハビリテーション	1 5	井上 秀美	兼任
	地域理学療法学	9	高國 憲二	兼任
		6	横濱 集	兼任
生活環境学	1 5	金村 智紀	専任	
臨床実習	臨床見学実習	2 3	青山 千春	専任
			黒澤 祝	専任
			金村 智紀	専任
			清水 薫	専任
			大橋 哲朗	専任
	臨床検査実習	2 3	青山 千春	専任
			黒澤 祝	専任
			金村 智紀	専任
			清水 薫	専任
			大橋 哲朗	専任
	臨床実習Ⅰ	1 1 3	青山 千春	専任
			黒澤 祝	専任
			金村 智紀	専任
			清水 薫	専任
			大橋 哲朗	専任
	臨床実習Ⅱ	1 5 8	青山 千春	専任
			黒澤 祝	専任
			金村 智紀	専任
			清水 薫	専任
			大橋 哲朗	専任
三木 貴弘			兼任	
稲田 亨			兼任	
堀合 健太			兼任	
今本 大地	兼任			
在宅リハビリテーション実習	2 3	青山 千春	専任	
		黒澤 祝	専任	
		金村 智紀	専任	
		清水 薫	専任	
		大橋 哲朗	専任	
臨床実習Ⅲ	1 5 8	青山 千春	専任	
		黒澤 祝	専任	
		金村 智紀	専任	
		清水 薫	専任	
		大橋 哲朗	専任	

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
療法士の臨床場面を見学（将来像の形成）	1年後期	臨床見学実習 理学療法概論 理学療法概論演習	1年後期 1年前期 1年通年
臨床場面において検査実技を経験	2年通年	臨床検査実習 理学療法基礎評価学 理学療法評価学総合演習Ⅰ	2年通年 1年後期 2年通年
検査等評価の実施と治療方針の立案	3年後期	臨床実習Ⅰ 理学療法治療学演習Ⅰ 理学療法基礎評価学実習	3年後期 3年通年 2年後期
評価から治療の一貫した流れの学習	4年前期 (2回)	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 理学療法治療学演習Ⅱ	4年前期 3年後期
地域リハビリテーションの見学	4年前期	在宅リハビリテーション実習 地域リハビリテーション 地域理学療法学	4年前期 3年前期 4年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	①学校関係者評価委員会 ②西野学園教学監査（教学マネジメント室）
委員名（委員長）	①杉原 俊一（委員長） ②米田 裕義（教学マネジメント室 室長）
組織の開催頻度	①1年に3回 ②1年に1回
組織の取り組み内容	・ 教職員の自己点検に基づく学校評価
	・ 学生による授業評価の分析
	・ 公開授業、研究授業への委員による参観と授業指導
	・ 学校運営、教育業務が法令等に則り適正に行われているかの点検・指導
自己点検・評価結果の公表	HPで公表（URL： http://www.nishino-g.ac.jp ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	①教学マネジメント室 ②教育課程編成委員会 ③学内教育課程委員会 ④学内教務部
	委員構成等	①米田 裕義（教学マネジメント室 室長）、学園職員 ②校長含む学内教職員（5名）と学外有識者（4名）による構成 ③学科長含む学内教員数名で構成 ④学科教員
	改善の仕組みの実際	①シラバス作成に関する研修会、シラバス作成要領の作成、シラバス作成内容の確認・指導、シラバスデータの管理 ②カリキュラム編成、多職種連携の取り組みに関する意見交換、助言 ③科目内容、科目関係の検証と内容改善 ④学内提出シラバスの形式等のチェックと改善内容の提案

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

年度末に学科、分掌業務での年度内総括を行い、新年度計画に反映させている。その他、教職員による自己点検・評価も実施し、学校全体の自己点検結果としてまとめ、結果は外部委員へ報告、意見交換を行い、10月に学園・学校ホームページ上に公表している。これらの結果等も参考にしながら、学科教員へ周知を図り、学科内の様々な課題に関する取り組み内容に活かしている。

また、学内適正な学校運営、効果的な教育活動を実践するため、学园内教学マネジメント室とも連携し、学内諸会議での教員間での情報共有、課題解決への共通認識をもち組織的に取り組んでいくことを実践している。

養成施設指導ガイドラインに基いた教育課程を体系的に編成、運営していくため、情報収集に努め、計画的かつ、適正な運営にいかしている。また、十分な臨床実習が実施できるよう、臨床実習指導者講習会を積極的に運営。臨床実習指導者を育成する中で計画的に提携施設を増やし、臨床実習施設との連携強化を図っている。